

第31回 縮小社会研究会報告



参加者数50名

縮小社会を想定した農業のあり方を語っていただきました。議論は白熱し、懇親会まで続きました。

現在の農業は化石燃料、化学肥料、農薬などに支えられています。将来は、それらが保証されません。そこで、現在の農業の問題点を認識し、将来の姿について考えたいと思います。

時：2015年10月24日（土）13時-17時30分

所：京都大学 文学部 第3講義室

講演会プログラム

13：00-14：00 「縮小社会は市民皆農社会」

長谷川浩氏（福島県有機農業ネットワーク・日本有機農業学会）

22世紀には石油も他の化石燃料も枯渇し、農業生産、食料輸送、外食、加工食品、調理も石油漬けでは存続することはできません。最もストレートな方策は皆が耕し、食料を貯蔵して消費する市民皆農の実現です。そのためには：1）太陽エネルギーに依存するために、多くの人が大都市を捨てて田舎に分散して住むこと、2）田舎で、土を育み、作物を育て、家畜を飼い、木材や草を資源として計画的に利用する技と基礎知識を身につけ、社会も大転換が必要です。



長谷川浩氏

14：05-15：05 「食から考える未来の環境と農業」

秋津元輝氏（京都大学教授）

大規模商品生産型農業と小規模自給拡大型農業。世界で農業の二極化が進む中で、持続的社會形成に貢献する農業を実現するにはどうすればよいのか。近年支配力の高まる消費の側から働きかける方法について考えます。



秋津元輝氏

15：15-16：15 「環的中日本主義の勧め」

篠原孝氏（衆議院議員）

私は85年、拙書『農的小日本主義の勧め』の中で、自由貿易主義至上主義を否定し、足もとの農的再生資源を有効活用した自立国の道を追求すべきと説いた。今改めて、現在再興するかつての「殖産興業」「富国強兵」路線に対抗し、一歩進めた『環的中日本主義』を提唱する。



篠原孝氏

16：20-17：20 「パネル討論」

懇親会：17時30分-19時、 トスカ（京大農学部前）、参加費：3000円

一般社団法人 縮小社会研究会 〒606-8227 京都市左京区田中里ノ前町21 石川ビル305
e-mail: jimukyoku@shukusho.org HP: <http://shukusho.org/>